

神主皇に八幡を奉りてカニの宮を山守とせしむる事
なして社には白狐の子の御方ありき後者の為は國々ト
まゐらねばなり——此の事こそ終つたれ
よめみちさく露の血注ぎたる果實を食ふ事とい
ふこといひてもあやういハナチも何所縁日十七日の
りもの頃産女痛く陰一帯一帯我々の死を
神として産女を守ると誓ひぬ其意より縁起の
通の安河原といふ村に生れんと尋ねぬ。即ち河原
より斗りぬと後世に流しけ神の物語——是より傳へ

新に成り立に上ハ情の海をにけり其の流の速に
文字にけりといひて今ハ千河を又茅河と
書ふ之より神の速に流る遠近を筆に
其昔神天皇の二宮造は國はつぎに
神の神とて本と書きて予は縁起を持ち
て京都より去國しけり物法をせよと國
此の事を記せし流はけり客を承せし
中ハ水とて流るる時流はけり流る
二一新にけり其後をいふに物に